

第8回NTTグループ 空手道連盟全国選手権大会

日時 平成15年11月2日(日) AM9:30~PM3:00

場所 NTT 東日本研修センタ 武道館

主催 NTTグループ空手道連盟

主管 NTT東京空手道部

NTT データ空手道部

NTT通研空手道部

ごあいさつ

写真

NTTグループ空手道連盟
会長 立花 佑介

NTTグループの空手道愛好家の皆様のご賛同とご協力のもとに、「第八回NTTグループ空手道連盟全国選手権大会」を中央研修センターにおいて開催できますことは、非常に意義深いことであり心よりお慶び申し上げます。

空手道は、日本の伝統文化としての精神性と、また老若男女を問わず誰でもできる近代スポーツとしての要素を兼ね備えた競技であります。技のもつ魅力もさることながら、身体の鍛錬と心・人格の涵養に重きをおいており、健全な人間形成に大きく貢献しているところであります。

本大会において、日頃から切磋琢磨した空手道の技と精神力を遺憾なく発揮しあうとともに、会員相互の交流を深めていただきたいと思います。

さて、平成7年7月にNTT空手道連盟として設立して以来、地域の空手道愛好家の発掘に努め、NTTグループの全国各地の空手道愛好家の集う場所として、技の鍛錬と空手を通じた交流に寄与してきているところです。昨年、平成14年11月にはNTTグループ空手道連盟と名称を改め新たなステップを踏み出しました。NTTグループ、および関連会社の中には未だ連盟に加盟されていない愛好家も多々あると思われます。是非、連盟に加盟していただき、多くの空手道愛好家の参加のもと、さらに、「NTTグループ空手道連盟」が発展していくことを期待してやみません。そのためにも関係各位の格段なるご協力を賜りたいと考えております。

おわりに、このたびの第八回NTTグループ空手道連盟全国選手権大会の開催に際しまして、ご支援、ご協力いただきました関係者の皆様方に厚くお礼申し上げますとともに、本大会が皆様のご健闘により実り多き大会となりますことを心より祈念してあいさつとします。

大会役員

大会会長	立花 佑介	(NTT顧問)
大会副会長	山口 晃生	(NTT西日本 神戸支店)
大会副会長	星野 肇夫	(NTTエレクトロニクス)
実行委員長	高野 誠	(NTT西日本)
実行副委員長	森田 稔	(NTTドコモ 多摩支店)
実行委員	野口 悦男	(NTT 光エレクトロニクス研究所)
実行委員	石原 肇	(NTTコムウェア 東海会社)
実行委員	佐藤 秀美	(NTT西日本 大阪支店)
実行委員	大西 学	(NTT東日本 サービス東京)
実行委員	佐藤 慎一	(NTTデータ)
実行委員	土田 淳一	(NTT東日本 仙台支店)
実行委員	上川原 勉	(NTT東日本 新潟支店)
大会幹事	葉玉 寿弥	(NTT未来ねっと研究所)
大会幹事	田中 勝志	(NTT情報流通プラットフォーム研究所)

審 判 団

大会監査役	中 嶋 晋 二	(神戸)
大会監査役	浅 谷 耕 一	(東京)
大会監査役	原 元 一	(東京)
大会監査役	藤 田 拓	(東京・データ)
大会審判長	今 野 正 忠	(東京)
副 審 判 長	奥 野 隆 久	(神戸)
審 判 員	高 野 誠	(本社通研)
審 判 員	野 口 悦 男	(本社通研)
審 判 員	葉 玉 寿 弥	(本社通研)
審 判 員	石 原 肇	(東海)
審 判 員	奥 野 紀 美 子	(神戸)
審 判 員	森 田 稔	(東京)
審 判 員	佐 藤 秀 美	(神戸)

大会式次第

大会プログラム(1/2)

第一部 開会式

- | | | | |
|----|--------|---------|-------|
| 1. | 選手入場 | | |
| 2. | 開会の辞 | 大会実行委員長 | 高野 誠 |
| 3. | 国旗遥拝 | | |
| 4. | 大会会長挨拶 | 大会会長 | 立花佑介 |
| 5. | 来賓祝辞 | | |
| 6. | 優勝杯の返還 | | |
| 7. | 選手宣誓 | データ空手道部 | 佐藤 慎一 |
| 8. | 審判注意 | 大会審判長 | 今野 正忠 |
| 9. | 選手退場 | | |

第二部 試合

- | | | | |
|----|--------|---------|--------|
| 1. | 個人形試合 | | |
| | 有級の部 | | 予選なし決勝 |
| | シニア一部 | | 予選なし決勝 |
| | シニア二部 | | 予選なし決勝 |
| | 有段の部 | | 予選なし決勝 |
| 2. | 組手試合 | | |
| | 有級の部組手 | 1回戦～準決勝 | 3位決定戦 |
| | シニア組手 | 1回戦～準決勝 | 3位決定戦 |
| | 有段の部組手 | 1回戦～準決勝 | 3位決定戦 |
| | 団体組手 | 1回戦～準決勝 | |

第三部 演武

- 演武
- 四国空手道部
 - 神戸空手道部
 - 通研空手道部
 - 東京空手道部
 - 学園空手道部 OB
 - データ空手道部
 - 東海空手道部

大会プログラム(2 / 2)

第四部 試合組手決勝

有級の部組手	決勝戦
シニア組手	決勝戦
有段の部組手	決勝戦
団体組手	決勝戦

第五部 閉会式

1. 役員・選手整列
2. 表彰

有級の部個人形	優勝・準優勝・3位
シニア一部個人形	優勝・準優勝・3位
シニア二部個人形	優勝・準優勝・3位
有段の部個人形	優勝・準優勝・3位
有級の部組手	優勝・準優勝・3位
シニアの部組手	優勝・準優勝・3位
有段の部組手	優勝・準優勝・3位
団体組手	優勝・準優勝・3位
3. 国旗遙拝
4. 大会講評 大会監査役 中嶋 晋二
5. 閉会の辞 大会副実行委員長 森田 稔

個人形試合

有級の部

No.	氏名(所属)	得点(予選)	得点(決勝)
1	諸橋 勝晴 (工学院)		
2	川口 純弥 (工学院)		
3	山本 哲也 (データ)		
4	大澤 篤史 (工学院)		
5	青木 智也 (工学院)		
6	矢部 智之 (工学院)		
7	小林 昌雄 (データ)		
8	永田 純一 (工学院)		
9	田口 徳康 (工学院)		

個人形試合

シニア一部

No.	氏名(所属)	得点(予選)	得点(決勝)
1	保坂 一 (東京)		
2	上川原 勉 (新潟)		
3	葉玉 寿弥 (通研)		
4	森田 稔 (東京)		
5	土田 純一 (東北)		
6	奥野 紀美子 (神戸)		

シニア二部

No.	氏名(所属)	得点(予選)	得点(決勝)
1	秋永 弘 (東京)		
2	篠原 一夫 (四国)		
3	田中 康雄 (東京)		
4	山口 澄 (東京)		
5	茶谷 繁 (東京)		
6	石原 肇 (東海)		
7	永坂 和春 (東京)		
8	原 元一 (東京)		

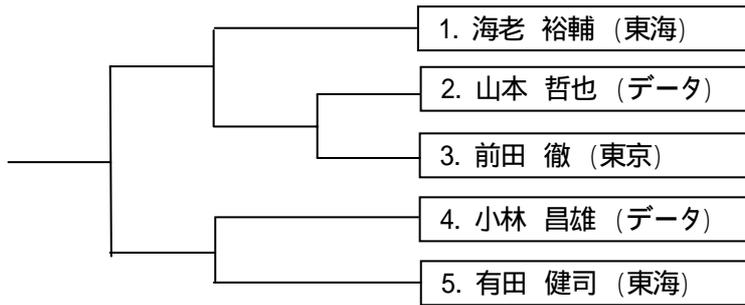
個人形試合

有段の部

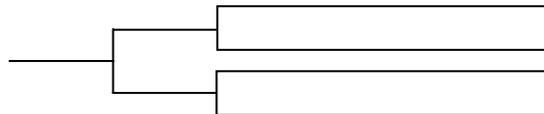
No.	氏名(所属)	得点(予選)	得点(決勝)
1	田辺 浩平 (工学院)		
2	金子 東雲 (データ)		
3	田中 勝志 (東京)		
4	水野 伸太郎 (通研)		
5	佐藤 慎一 (データ)		
6	長崎 浩一 (神戸)		
7	大西 学 (東京)		
8	新貝 匡輝 (データ)		
9	前大道 浩之 (通研)		
10	奥野 隆久 (神戸)		

個人組手試合

有級の部

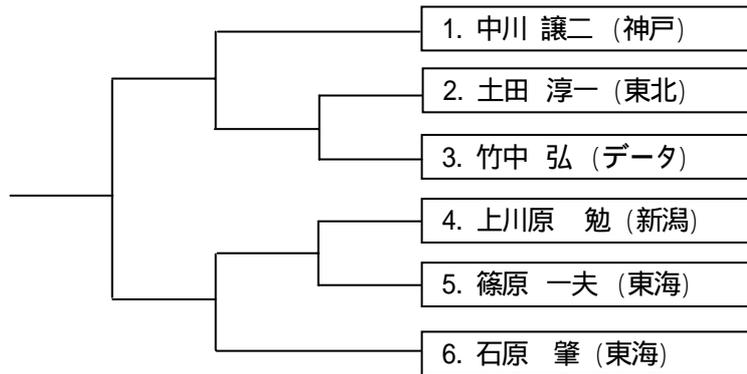


3位決定戦



個人組手試合

シニアの部

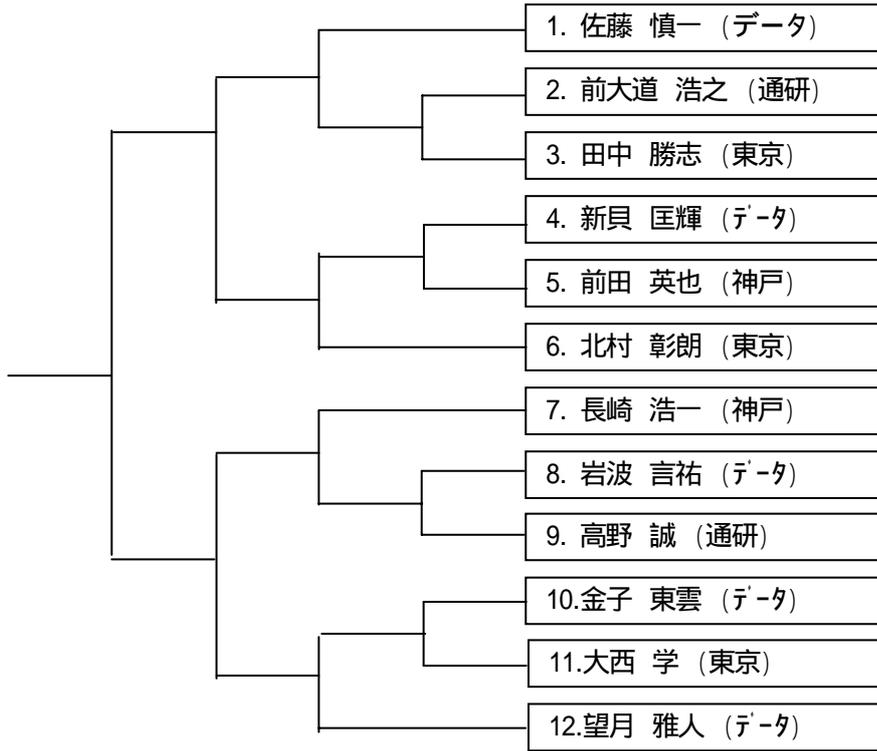


3位決定戦

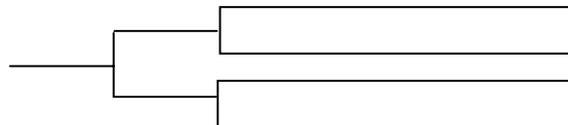


個人組手試合

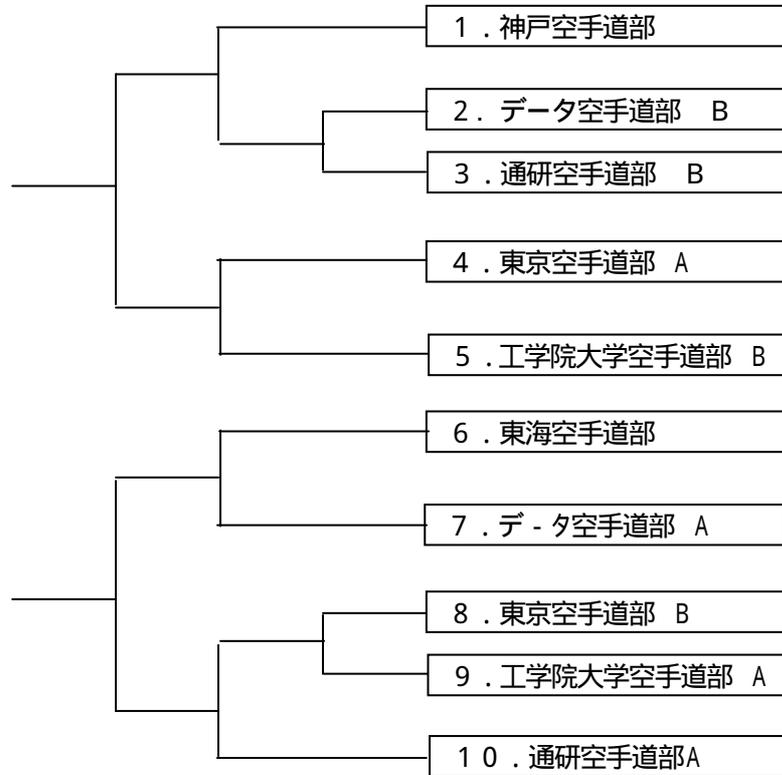
有段の部



3位決定戦



団体組手試合



神戸空手道部		
監督	4段	前田 英也
大将	4段	長崎 浩一
中堅	4段	中川 譲二
先鋒	4段	中川 譲二

デー夕空手道部 B		
監督	2段	岩波 言祐
大将	2段	岩波 言祐
中堅	5級	山本 哲也
先鋒	5級	小林 昌雄
補欠	2段	金子 東雲
補欠	3段	竹中 弘

通研空手道部 B		
監督	7段	浅谷 耕一
大将	3段	葉玉 寿弥
中堅	2段	前大道浩之
先鋒	初段	橘川 麻理
補欠	2段	丹野 忠伸
補欠	初段	水野伸太郎

東京空手道部 A		
監督	4段	森田 稔
大将	初段	大西 学
中堅	初段	田中 勝志
先鋒	3段	上川原 勉
補欠	4段	森田 稔

工学院大学空手道部 B		
監督	7段	浅谷 耕一
大将	初段	田辺 浩平
中堅	1級	木下 広介
先鋒	1級	江崎 尚

東海空手道部		
監督	5段	石原 肇
大将	4級	有田 憲司
中堅	4級	海老 祐輔
先鋒	5段	石原 肇

デー夕空手道部 A		
監督	2段	佐藤 慎一
大将	2段	佐藤 慎一
中堅	2段	望月 雅人
先鋒	3段	新貝 匡輝
補欠	2段	金子 東雲
補欠	3段	竹中 弘

東京空手道部 B		
監督	4段	梅内 浩幸
大将	初段	北村 彰朗
中堅	3段	前田 徹
先鋒	初段	保坂 一

工学院大学空手道部 A		
監督	7段	浅谷 耕一
大将	初段	川上 浩只
中堅	1級	田口 徳康
先鋒	2級	矢部 智之

通研空手道部 A		
監督	7段	浅谷 耕一
大将	2段	丹野 忠伸
中堅	3段	堀田 英一
先鋒	初段	水野伸太郎
補欠	2段	前大道浩之
補欠	初段	橘川 麻理

NTT空手道連盟全国選手権大会成績表(1 / 5)

第一回	平成8年度 11月3日 NTT中央研修センタ	主幹： 本社通研空手道部 東京空手道部	優秀選手(敢闘賞)
個人組手	優勝	安達 俊雄(関西)	
	準優勝	前田 英也(関西)	
	3位	佐藤 慎一(東京)	
	4位	長崎 浩一(関西)	
個人形	優勝	奥野 紀美子(関西)	
	準優勝	奥野 隆久(関西)	
	3位	宮脇 光志(東京)	
	4位	大西 学(東京)	佐藤 慎一(東京)
団体組手	優勝	東京空手道部	
	準優勝	関西空手道部	
	3位	本社通研B	

第2回	平成9年度 11月2日 NTT鈴鹿研修センタ	主幹： 関西空手道部	優秀選手(敢闘賞)
有段組手	優勝	安達 俊雄(関西)	
	準優勝	佐藤 慎一(東京)	
	3位	森本 博愛(東京)	
	4位	長崎 浩一(関西)	
段外組手	優勝	海老 裕輔(東海)	
	準優勝	村田 英樹(関西)	
	3位	樋口 嘉成(関西)	
	4位	矢野 政彦(東海)	
個人形	優勝	森本 博愛(東京)	
	準優勝	宮脇 光志(東京)	
	3位	服部 初男(東海)	
	4位	奥野 隆久(関西)	奥野 紀美子(関西)
団体組手	優勝	東京空手道部	
	準優勝	関西空手道部A	
	3位	本社通研	

NTT空手道連盟全国選手権大会成績表(2 / 5)

第3回	平成10年度 11月1日 NTT中央研修センタ	主幹: 本社通研空手道部 東京空手道部	優秀選手(敢闘賞)
有段組手	優勝	前田 英也(関西)	
	準優勝	中川 譲二(関西)	
	3位	長崎 浩一(関西)	
	4位	高野 誠(通研)	
段外組手	優勝	海老 祐輔(東海)	
	準優勝	小川 智章(通研)	
	3位	加藤 高明(東海)	
	4位	窪田 紀彦(東京)	
個人形	優勝	森本 博愛(データ)	
	準優勝	佐藤 慎一(データ)	
	3位	奥野 隆久(関西)	
	4位	奥野 紀美子(関西)	大西 学 宮脇 光志(東京) 土田 淳一(東北) 山角 修一(鹿児島)
団体組手	優勝	NTTデータ空手道部	
	準優勝	通研空手道部A	
	3位	東京空手道部	
	4位	関西空手道部A	

第4回	平成11年度 10月31日 NTT東海体育館	主幹:東海空手道部	優秀選手(敢闘賞)
有段組手	優勝	望月 雅人(データ)	
	準優勝	前田 英也(神戸)	
	3位	森本 博愛(データ)	
	敢闘賞	山角 修一(鹿児島)	
段外組手	優勝	森田 賢二(データ)	
	準優勝	綾田 直輝(通研)	
	3位	加藤 高明(東海)	
個人形	優勝	宮脇 光志(東京)	
	準優勝	森本 博愛(データ)	
	3位	佐藤 慎一(データ)	
	敢闘賞	原 元一(東京)	
団体組手	優勝	NTTデータ空手道部	
	準優勝	九州空手道部	
	3位	神戸空手道部A	

NTT空手道連盟全国選手権大会成績表(3 / 5)

第5回	平成12年度 10月29日 NTT東日本研修センタ	主幹: NTT 東京空手道部 NTT データ・通研空手道部	優秀選手(敢闘賞)
有段組手	優勝	森本 博愛(データ)	
	準優勝	前田 英也(神戸)	
	3位	佐藤 慎一(データ)	
	4位	大西 学(東京)	
段外組手	優勝	海老 祐輔(東海)	
	準優勝	酒井 統史(通研)	
	3位	森田 賢二(データ)	
	4位	矢原 大志(通研)	
個人形 (有段)	優勝	伏見 孝行(東京)	土田 淳一(東京)
	準優勝	佐藤 慎一(データ)	大西 学(東京)
	3位	森本 博愛(データ)	葉玉 寿弥(通研)
	4位	奥野 隆久(神戸)	ヤコブ・ロイター(通研)
個人形 (有級)	優勝	齊藤 正(通研)	西川 正(通研)
	準優勝	森田 賢二(データ)	塩野谷 寧(通)
	3位	池辺 亮(データ)	
	4位	徐 光哲(データ)	
シニア組手 (40代)	優勝	中川 譲二(神戸)	
	準優勝	服部 初男(東海)	
	3位	森田 稔(東京)	
	敢闘賞		
シニア組手 (50代)	優勝	山角 修一(鹿児島)	
	準優勝	佐野 範久(東海)	
	3位	石原 肇(東海)	
シニア形 (40代)	優勝	奥野紀美子(神戸)	田中 康雄(東京)
	準優勝	服部 初男(東海)	加藤 高明(東海)
	3位	森田 稔(東海)	
	敢闘賞	浅野 兼賞(データ)	
シニア形 (50代)	優勝	原 元一(東京)	山口 澄(東京)
	準優勝	永坂 和春(東京)	長田 薫(東京)
	3位	山角 修一(鹿児島)	知花 賢宣(沖縄)
	敢闘賞	石原 肇(東海)	
組手団体	優勝	通研空手道部 B	
	準優勝	通研空手道部 A	
	3位	神戸空手道部 B	

NTT空手道連盟全国選手権大会成績表(4 / 5)

第6回	平成13年度 11月4日 NTT西日本研修センタ	主幹: NTT 神戸空手道部	優秀選手(敢闘賞)
有段組手	優勝	安達 俊雄(神戸)	
	準優勝	長崎 浩一(神戸)	
	3位	佐藤 慎一(データ)	
	4位	前田 英也(神戸)	
段外組手	優勝	海老 祐輔 関西	
	準優勝	渡辺 亮(データ)	
	3位	齋藤 正(通研)	
	4位	有田 憲司(東海)	
個人形 (有段)	優勝	奥野 隆久(神戸)	
	準優勝	佐藤 慎一(データ)	
	3位	長崎 浩一(神戸)	
	4位	望月 雅人(データ)	
個人形 (有級)	優勝	齋藤 正(通研)	
	準優勝	海老 祐輔 関西	
	3位		
	4位		
シニア組手 (40代)	優勝	芥子 寿和(神戸)	
	準優勝	上田 純一(熊本)	
	3位	前塚 満(神戸)	
	4位	服部 初男(東海)	
シニア組手 (50代)	優勝	山角 修一 鹿児島	
	準優勝	中川 譲二(神戸)	
	3位	山崎 俊正(データ)	
	4位	佐野 範久(東海)	
シニア形 (40.50代)	優勝	奥野紀美子(神戸)	
	準優勝	原 元一(東京)	
	3位	山角 修一 鹿児島	
	敢闘賞	服部 初男(東海)	
組手団体	優勝	データ空手道部 A	
	準優勝	神戸空手道部 B	
	3位	通研空手道部 A	
	敢闘賞	神戸空手道部 A	

NTT空手道連盟全国選手権大会成績表(5 / 5)

第7回	平成14年度 11月3日 NTT東海体育館	主幹: NTT 東海空手道部	優秀選手
有段組手	優勝	佐藤 慎一	
	準優勝	望月 雅人	
	3位	森本 博愛	
	敢闘賞	新貝 匡輝	
段外組手	優勝	有田 憲司	
	準優勝	山本 哲也	
	3位	鈴木 芳久	
	敢闘賞	池部 亮	
個人形 (有段)	優勝	森本 博愛	
	準優勝	佐藤 慎一	
	3位	藤田 拓	
	敢闘賞	奥野 隆久	
個人形 (有級)	優勝	池部 亮	
	準優勝	鈴木 芳久	
	3位	小林 昌雄	
	敢闘賞	山本 哲也	
シニア組手 (40代、50代))	優勝	山角 修一	
	準優勝	山崎 俊正	
	3位	中川 譲二	
	敢闘賞	石原 肇	
シニア形 (40.50代)	優勝	奥野紀美子	
	準優勝	原 元一	
	3位	服部 初男	
	敢闘賞	山角 修一	
組手団体	優勝	神戸空手道部	
	準優勝	通研空手道部	
	3位	NTTデ-タA	
	敢闘賞	NTTデ-タB	

第8回 NTT 空手道連盟全国選手権大会実施規則

第一条(目的)

本規則は、第8回NTT空手道連盟全国選手権大会(以下「大会」という。)を実施するにあたり、その準拠となる事項を定め円滑な大会運営に寄与する。

第二条(大会運営)

大会の運営にあたっては、大会実行委員長がこれを統括する。この際、大会実行委員長は、大会運営に必要な事項を行使するとともに、これと同等の責任を負う。

また、大会の運営を円滑に進めるために以下の係をおく。

大会総務	大会設営	記録
受付、接待	選手	時計
進行、放送	救護	掲示
式典、表彰	大会ドクター	進行

第三条(審判)

- (1)大会審判長は審判団を構成する。
- (2)主審は公認審判資格、又は会派団体の資格を有するもの。
- (3)審判服装は長袖ワイシャツ、ネクタイ、各地区・団体ブレザー、ズボンはグレー黒のクツ、又は素足とする。(服装は審判長が指定する。)
- (4)団体組手防具付きの主審は道衣と袴、副審はワイシャツでもよい。
- (5)審判団の構成、審判規則については、理事会でこれを決定する。

第四条(大会監査)

各地区の師範が監査役をつとめる。理事会で要請する。

第五条(競技規定)

- (1)防具付きは防具試合規定、審判規定
- (2)全日本空手道連盟試合規定、審判規定
上記規定に則り行うが、本連盟規定を準用する。

第六条(組手試合の方式ならびに時間)

個人戦(全空連方式)

- (1)勝負...3本勝負。(6ポイント)但し、シニアの部は2本勝負とする。
- (2)時間...2分間(フルタイム)但し、シニアの部は2分流しとする。
- (3)トーナメント方式により行う。(3位決定戦まで実施する)
- (4)安全具、メンホー、拳サポータ、金カップを着用。
- (5)マウスピース、胴プロは自由使用。
- (6)審判の人数は主審1、副審4とし、副審は4コーナに配置する。

団体戦(防具付)

- (1) 勝負...1本勝負.(2ポイント)
- (2) 時間...2分間(フルタイム)
- (3) 1チーム3名で構成する.
- (4) トーナメント方式により行う.(3位決定戦まで実施する)
- (5) 勝者とポイントが同数の場合,代表決定戦を行う.
- (6) 負傷等で交代した場合,その選手は出場できない.
- (7) 監督と選手をかねることができる.
- (8) メンバー表はその都度提出する.提出後の変更は不可.
- (9) 審判の人数は主審1,副審4とし,副審は4コーナに配置する.

第七条(型試合の方法と形の指定)

- (1) 点数で得点表示
- (2) 基準点は6~8点.(試技を行い点数の統一を計る,演武順最後の選手により試技)
- (3) 自由形でよい.選で上位8名を選出し,決勝戦を行う.(参加人数により変更あり)
- (4) 同点の場合順位決定戦.紅白旗で表示,形は同じ形でよい.
- (5) 審判の人数は主審1,副審4とし,副審は4コーナに配置する.
- (6) 決勝戦の演武順はゼッケン順とする.

第八条(団体組手,防具の審判規定)

競技における攻撃の禁止事項を下記のように定め,違反者は(反則負け)とする。
 但し,軽懲の違反者に対しては(反則注意)の警告を申し付ける。

- (1) 攻撃の禁止事項
 - ・股間部への攻撃
 - ・継続的な組み合い
 - ・関節技
 - ・強引な投げ技
 - ・体当たり技
 - ・背面よりの攻撃
 - ・気合以外的人格を無視するような言葉
 - ・競技に関連しない時間の浪費(技を取った後の時間かせぎ等)
- (2) 場外の基準は競技者が競技場の外のラインを出た場合とする。但し,不測の事態により,体位が競技場の外側の線を出たと認定される場合はこれを除く。
 (副審は場外の宣言を旗をまわして行わなければならない)
- (3) 失格の基準は次のごとく定める。
 - ・競技の継続を拒否,または放棄した場合。
 - ・審判の判定を不服とし,審判員に直接抗議した場合。
 - ・競技中,主審の指示に従わぬ場合。
 - ・指定時間内に入場していない場合。

(4)副審の任務

- ・組手競技においては、主審の判定宣言に従い紅白の旗を用いて競技の判定を表示する。
- ・組手競技中、的確に攻撃技を確認した場合、旗を用いてその旨を表示する。
- ・組手競技者の負傷、場外、転倒、死角位置、及び競技の継続が不可能と認めた場合、旗及び、呼び笛を用いて表示する。
- ・主審の招集に従い、自己の意見を述べる。

第九条(選手の呼び出し)

選手係が3回呼び出しても選手が不在の場合は、原則として相手方の不戦勝とする。

第十条(事故時の責任)

- (1)大会実行委員会では試合等における事故の場合応急処置を行う。
- (2)選手は保険証を持参、大会全体で傷害保険に加入をする。
- (3)救急病院の把握(住所、電話番号、診療時間、診療科目等)

第十一条(ゼッケン)

- (1)個人戦のゼッケンは各地区で準備する。(組手:黒,型:赤で表示)
- (2)組手 = 黒
- (3)形 = 赤で表示
- (4)寸法は自由(縦26・横18cm位)

第十二条(その他の確認事項)

- (1)全空連方式の場合、道衣の袖、裾はまくらない、女子のヘアピン等は外す。
- (2)テーピングは事前に主審の許可を得る。攻撃強化や競技を中断させるようなものは不可。
- (3)色は白、肌色、負傷及び再発防止のための包帯、サポータは使用可。
- (4)道衣は白無地一色とし、左胸に会派、所属のマークは着用可。
- (5)メガネは使用禁止、コンタクトは各自の責任で使用可。
- (6)反則技は、理事会、審判団会議で再確認を行う。
- (7)監督、審判、選手を兼ねることができる。
- (8)組手個人戦、団体戦で判定が分かれた場合、副審を呼び協議することができる。
- (9)審判団は組手の3位決定戦、準決勝、決勝、形の決勝で再編成する。
- (10)自地区選手の主審は極力外れる。

第十三条(競技種目)

- (1)組手個人戦(段) (全空連方式)
- (2)組手個人戦(級) (全空連方式)
- (3)形 (段) (全空連方式)
- (4)形 (級) (全空連方式) * H10年、第三回大会より種目追加
- (5)団体組手 (防具付規定) * H10年、第三回大会より1チーム3名とする。

第十四条(その他)

- (1)この規定は、平成8年11月4日に制定
- (2)平成9年9月25日改定(安全具、金カップ義務に、形、予選の実施)
- (3)平成10年10月1日改定(団体戦5名から3名、段外の形を種目に)
- (4)第三条の(4)項、審判員の服装の統一は検討事項に。(2回大会時)

NTTグループ空手道連盟規約

平成7年7月27日 制定
平成7年11月5日 改訂
平成9年11月2日 改定
平成14年11月21日改定

第1章 総則

(名称)

第1条 本連盟は「NTTグループ空手道連盟」と称する。

(目的)

第2条 本連盟は空手道の研鑽につとめ、人格の向上及び身体の鍛錬を行い、もって良識ある社員の育成を図ることを目的とする。

(活動)

第3条 本連盟は第2条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- (1) 空手道大会(以下「全国大会」という)の開催。
- (2) 組織の空手道愛好者の活動状況の把握及び指導。
- (3) その他、目的達成に必要な活動。

第2章 組織

(構成)

第4条 本連盟はNTTグループ社員(元社員を含む)及び関連会社社員の空手道愛好者、ならびに理事会の議決をもって承認された団体(以後、友好団体と称する)に属する空手道愛好者をもって構成する。

(組織)

第5条 本連盟は次の組織とする。

NTTグループ空手道連盟

|

各職場等における組織(地域組織等(各職場等)において適宜組織する)、友好団体、および連盟加盟個人。

第3章

(役員)

第6条 本連盟は次の役員をおく。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 若干名
- (3) 顧問 若干名
- (4) 常任理事 若干名
- (5) 理事 若干名
- (6) 幹事 若干名
- (7) 事務局長 1名
- (8) 事務局 若干名
- (9) 会計監査 2名

(役員の任務)

第7条 役員は次の任務を行う。

- (1) 会長は本連盟を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はその任務を代行する。
- (3) 顧問は本連盟の重要事項に関し、会長の諮問に応ずる。
- (4) 常任理事は本連盟の運営に関し、指導助言を行うと共に理事会を運営する。
- (5) 理事は各組織の長として地域組織を代表し、理事会に出席し議決権を行使する。
- (6) 幹事は理事会等の開催にあたりその設定を行う。
- (7) 事務局長は会長、副会長及び常任理事を補佐し、幹事会ならびに事務局を運営する。
- (8) 事務局は事務局長を補佐し、幹事会ならびに本連盟の運営を補助する。
- (9) 会計監査は本連盟の会計を監査する。

(役員の選出)

第8条 役員の推挙及び選出は次による。

- (1) 会長及び副会長は理事会で推挙する。
- (2) 顧問は理事会の推挙により会長が委嘱する。
- (3) 常任理事は理事会で推挙する。
- (4) 理事は各組織で推挙する。
- (5) 幹事は地域組織の選出によるほか、理事会において若干名の幹事を選出する。
- (6) 事務局長は幹事会で選出する。
- (7) 事務局は事務局長が選出する。
- (8) 会計監査は全国大会開催地から選出し、会長が委嘱する。

(役員の任期)

第9条 役員の任期は1年とする。但し、再任は妨げない。

第4章 機関

(会議)

第10条 本連盟は次の会議を開催する。

(1) 理事会 理事会は本連盟の最高意志決定機関とし、会長が必要に応じて召集する。その他必要に応じて開催することができる。但し、やむを得ない場合は、電話、電子メール等の通信によって協議決定することができる。

(審議事項)

第11条

1 理事会は次の事項について審議し、出席者の過半数をもって議決する。

- (1) 本連盟運営上の重要事項。
- (2) 前年度の活動報告及び会計報告。
- (3) 新年度の活動方針。
- (4) 規約の制改訂。
- (5) 役員の推挙及び選出。
- (6) 友好団体の承認、友好団体の承認の取消
- (7) その他。

2 幹事会は次の事項について審議し、出席者の過半数をもって議決する。

- (1) 理事会に付議する事項。
- (2) 全国大会の運営概要。(但し「大会実施要領」に定めのあるものを除く)

(3) その他本連盟の運営に関し、本規約の定めのない事項。

(事務局)

第12条

1 本連盟の運営を行うため、NTTグループ会社内に事務局をおく。

2 事務局の運営は、事務局長があたる。

第5章 会計

(経費)

第13条 本連盟の経費は、理事会において決定する。

(会費)

第14条 本連盟の会費は1組織毎に年額10000円、個人加盟の場合には年5,000円とする。

(会計年度)

第15条 本連盟の会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

(基金)

第16条 全国大会運営の一助とするため「基金」を別途設置する。

第6章 各組織(空手道部)等

(各空手道部の組織、運営)

第17条 各空手道部は、本連盟の主旨に基づく組織を確立し、適正な運営を行い、活発な活動を展開する。

第7章 全国大会

(全国大会の開催)

第18条 全国大会は次により年1回開催する。

(1) 全国大会の開催は、各地域組織持ち回りとし、主幹地域組織は前年度理事会において決定する。

(2) 全国大会の運営概要については、「全国大会実施要領」による。

(3) 運営に関する細部事項については、実情に即した形で行う。

付則

本規約は平成7年7月27日から施行する。

参考

改訂履歴

[1] 平成7年11月5日

(1) 第14条

旧 会費

新 本連盟の会費は1組織毎に年額10000円とする。

[2]平成9年11月2日

(1)第6条

旧 (5)理事	12名
(6)幹事	1名(当面)
新 (5)理事	若干名
(6)幹事	若干名

[3]平成14年11月21日

(1)第1条

旧 本連盟は「NTT空手道連盟」と称する。

新 本連盟は「NTTグループ空手道連盟」と称する。

(2)第4条

旧 本連盟はNTT社員(元社員を含む)及び関連会社社員の空手道愛好者をもって構成する。

新 本連盟はNTTグループ社員(元社員を含む)及び関連会社社員の空手道愛好者、ならびに理事会の議決をもって承認された団体(以後、友好団体と称する)に属する空手道愛好者をもって構成する。

(3)第6条

新(9)事務局 若干名、追加

(4)第7条

新 (9)事務局は事務局長を補佐し、幹事会ならびに本連盟の運営を補助する。追加

(5)第8条

新 (8)事務局は事務局長が選出する。追加

(6)第11条

新 (6)友好団体の承認、友好団体の承認の取消。追加

(7)第14条

旧 本連盟の会費は1組織毎に年額10000円とする。

新 本連盟の会費は1組織毎に年額10000円、個人加盟の場合には年5,000円とする。

NTT空手道連盟役員

役職	所属	氏名
会長	NTT顧問	立花 佑介
副会長	NTT西日本 神戸支店 経理部	山口 晃生
副会長	NTTエレクトロニクス	星野 肇夫
常任理事	NTT ME 関西 大阪東支店 第三設備	中嶋 晋二
常任理事	NTTサービス東京南支店 SO センタ	原 元一
常任理事	NTTデータ	山崎 俊正
理事	NTT 光エレクトロニクス研究所	野口 悦男
理事	NTTコムウェア東海支社	石原 肇
理事	NTT西日本 大阪支店	佐藤 秀美
理事	NTT-ME東京南支店 113 センタ	今野 正忠
理事	夢企画室セブンフェイス	古里 秀人
理事	NTTデータ	浅野 兼章
理事	NTT東日本仙台支店長町営業担当	土田 淳一
理事	NTTインフラネット(株)鹿児島支店	山角 修一
会計監査	NTTコムウェア東海支社	石原 肇
事務局長	東京NTTデータシステムズ 通信処理システム部	藤田 拓
事務局	NTT 西日本 研究開発センタ開発推進担当	高野 誠
幹事	NTT 未来ねっと研究所	葉玉 寿弥
幹事	情報流通プラットフォーム研究所	田中 勝志

NTT空手道連盟顧問

氏名	前役職	所属（当時を含む）
宮脇 隆	初代会長	NTT特別顧問
浅田 和男	二代目会長	代表取締役社長 NTT西日本
小西 祥夫	副会長	日本シスコム 関西支店
浅谷 耕一	副会長	工学院大学
大谷 好明	副会長	広島工業 関西支店
後山 昭雄	常任理事	NTTドコモサービス 関西支社
菅江 武	常任理事	株式会社NTTドコモ北海道お客様サービス部
野島 俊雄	理事	北海道大学
小野 勇	常任理事	NTT TE東京 専用サ - ビス事業部